

# 1

## Can-Do型授業とは？

ボランティア日本語教室などが陥りやすい指導法

- ① 文法説明が主となりやすい
- ② ボランティア日本語教育の意義が十分、把握されていない
- ③ 実技・ケーススタディに十分な時間が取られていない
- ④ “Can-do”認識が強調されていない
- ⑤ “Can-do”型授業を教師も経験していない
- ⑥ 文型と文法の差異がよく認識されていない

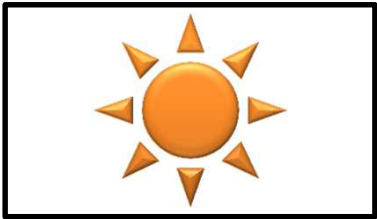


生活に即役立つ「Can-do型授業」の提案

# 2

## 実例 場面提示(買い物をする)

●希望するものを買うことができる



3F	本 		
2F			ATM <small>zabu</small>
1F			
B1	食料品・お惣菜 		

# 3

## 場面絞り込みと動機づけ



# 4

## スキット提示 ①



**A: すみません。**

**B: はい、いらっしゃいませ。**

**A: これ、しちゃくしてもいいですか？**

**B: はい、こちらでどうぞ。**

5

## スキット提示 ②

A: すみません。

B: はい、いかがですか？

A: ちょっとちいさいです。  
もうすこしおおきいの  
ありますか？

B: はい、こちらになります。

もうしわけありません。  
こちらだけになります。



# 6

## 例文のいろいろな展開

- これ、

きて
はいて
かぶって

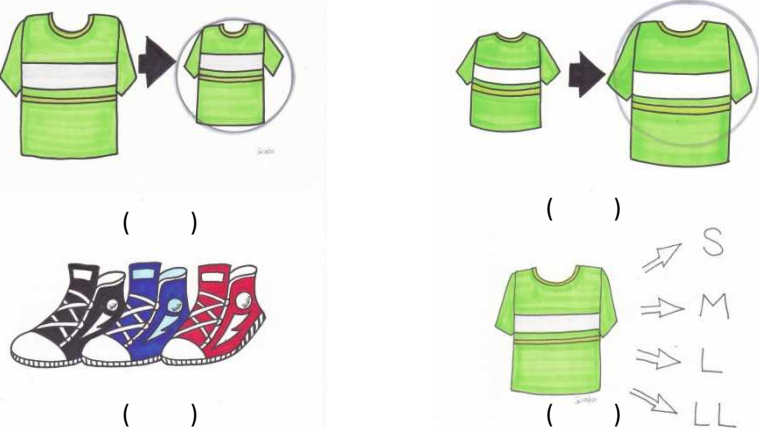


 みても いいですか？
- ジョギングシューズがほしいんですが  
どれが おすすめ ですか？
- じゃ、

これにします。
これください。
- すみません、

もうちょっと みてみます。
ほかのも みてみます。

# 7

## 「振り返りシート」の例

①あたらしく べんきょうした ことば	③評 価
 <p>( )</p> <p>( )</p> <p>( )</p> <p>( )</p>	
②はなしてみよう	④指導者のコメント
 <p>A:</p> <p>B:</p> <p>A:</p> <p>B:</p>	<p>「すみません」が、とてもじょうずでした。  「しちやく」が「ちちやく」になりますね。  もうすこしれんしゅうしましょう。</p> <p style="text-align: right;">担当: 佐藤</p>

# 8

## 振り返りシートの意義

- ・背景にある理念  
「ティーチング」から「ラーニング」(学習者中心教育)への転換  
「教員が何を教えるか」から  
「学習者が何を学びとるか」への視点の転換
- ・学習者自身が学んでいることを意識化し、確認していく作業
- ・何を評価の目的とするか、だれのための評価とするべきか、  
どう活用されることを期待するか、を明確にするため
- ・学習者が自身の日本語学習状況を把握し、学習を継続するための評価
- ・学習者が自分の日本語学習を振り返ることができるようにすることが必要



聖徳大学

振り仮名シートを活用したCase

事例

